

# まちのお医者さんからの 健康アドバイス

第30回

このコーナーでは、三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）から市民の皆さんにあてた、健康や病気についてのアドバイスを紹介しています。

## 外科手術の医療費のお話

—入院が短くなると医療費は少なくなる—

国際医療福祉大学病院 鈴木 裕

外科手術の医療費がどのような仕組みになっているかお話します。

大学病院を中心とした大きな病院ではDPCという包括医療を導入しているところが増えてきています。DPC下の医療費は①の式で計上されます。

(総医療費) = (DPC包括) + (出来高払い)...①

新しいシステムのDPCと従来の出来高払い制度の異なる点は以下の通りです。出来高払い制度では病院は治療に要した費用をすべて請求することができました。しかし、DPCでは、手術や麻酔などの一部の出来高払いを除いて、すべて包括化、すなわちどんな治療をしても一定の金額しか請求できなくなったのです。分かりやすくこれを身近な例に置き換えると、お寿司の食べ放題では、何をどれだけ食べても支払うお金は同じというわけです。このDPC導入の背景には、病院ができるだけ必要なもの以外はやらない、つまり医療費の抑制策があったのです。

次に、具体的な病気の例でDPCの医療費について解説します。

### 患者Aさん

62歳、男性、自営業が、胃がんの手術目的で入院したと仮定します。術前2日前に入院、術後14日目に退院した場合。



DPCでは、胃がんに対する1日当たりの医療費は固定されているので、DPC包括は1日当たりの固定額は約3万円となります。

### 計算例

1日当たりの固定額(約3万円)×16日(約48万円)となり、出来高払いの手術料(約90万円)や麻酔料(20万円)、リハビリ料(1万円)などを加え、158万円が総医療費になります。患者Aさんは国民健康保険なので、支払う代金は3割負担となり、158万円×0.3=47.4万円となります。



ここで、みなさんはお気づきになったかもしれませんが、総医療費の額を決める要因は、(手術や麻酔の額は保険点数で決められているので施設によるばらつきはほとんどない)入院期間の長さなのです。

国際医療福祉大学病院外科をはじめ、他の医療機関でも腹腔鏡を用いた低侵襲手術を胃がんや大腸がんに行っています。例えば、従来の開腹手術に比べて入院期間が極端に短く済む5Day Discharge Program(術後5日目に退院するプログラム)では、総医療費は30万円ほど少なくなります。患者さんの支払い分は、3割負担の場合には約9万円節約できることとなります。

今、病院は患者さんに早く元気になってもらい、できる限り早く社会復帰をしてもらうことが大きなテーマになっています。患者さんに治療の意義をよく理解していただき、患者さんと医療者が力を合わせることで治療成績を向上させ医療費も削減するのです。

※DPCとは、患者の病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた一日当たりの診療群分類点数を計算する定額払いの計算方式